

1 学校教育目標	
教育目標	1 広い教養と専門的な知識技術を身に付け、望ましい勤労観・職業観を養う。 2 感謝の気持ちを持ち、地域や社会に貢献する心と態度を養う。 3 自ら思考し、判断し、責任ある行動のとれる主体的能力、態度を養う。 4 強い使命感和倫理観を持ち、創造性豊かで挑戦し続ける産業人の育成を図る。
育てたい 生徒像	社会人として自発的・自律的に行動できる 1 基礎学力を含めた広い教養と専門的な知識技術 2 感謝の気持ちとボランティア精神 3 高い規範意識と正しい判断力 4 現状に満足せず主体的に学び続ける姿勢



校訓

勤労愛好 報恩感謝 自発自律

ひとつくり&ものづくり 100年へ向けて

～新たな百年の礎づくり～

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)							
【学習指導】		昨年度の授業アンケートでは100%の生徒が「授業がよくわかる」と回答した。本年度は、学期に2回、PDCAサイクルを回して、生徒に何が身に付いたかを確認しながら評価を行う。また、必要があれば授業改善に取り組む。さらに、引き続き、互見授業等を行い、教員の指導力向上を図っていく。					
【生徒指導】		昨年度、全生徒の出席率が93.2%であった。本年度の目標は95%である。生徒一人ひとりに合わせたきめ細かい指導を行い、校則の遵守や時間厳守の意識を高めるよう粘り強く指導する。また、月1回の情報交換会等で情報を共有して全教員の共通理解のもとで組織的に指導にあたる。					
【進路指導】		昨年度は13年連続進路実現100%を達成、本年度も継続して進路実現100%に取り組む。また、1・2年生については進路先の早期決定が図れるように生徒一人ひとりに合わせたきめ細かい指導を継続的に行う。					
【特別活動】		昨年度はコロナ禍で行事を工夫しながら実施した。本年度も従来の行事を大切にしながら、コロナ禍でもできる行事を企画・運営して生徒の自主性を育成していきたい。					
【工業科】		昨年度は資格、検定試験の学習やICT機器の活用拡大により、機械分野の知識や技能の指導を充実させた。本年度も継続して指導を行い、基礎学力の低い生徒については、学びなおしを他教科との連携により充実させる。					
【業務改善】		昨年度は時間外労働時間削減と校務の見直し等について取り組み、十分な成果があった。本年度も引き続き、時間外業務時間の削減、校務分掌の見直しと業務改善に取り組む。また、ジョブローテーションが可能な体制づくりに取り組んでいく。					
【地域連携】		昨年度はコロナ禍でもありボランティア活動等を断られることがあった。本年度については感染防止対策をしっかり行い、関係機関としっかり協議しながら、一つでも多く実施できるように創意工夫して取り組んでいく。また、ホームページを活用して情報発信に努めていく。					

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	
1 ICT機器の効果的利用等による、わかりやすい授業の実践 3 キャリア教育の充実と丁寧な進路指導	2 規律ある安心・安全な学校づくりと組織的な危機管理 4 学校行事や様々な媒体を利用した本校の魅力の積極的発信
(1)【学習指導】 ・基礎学力や技術の定着 ・互見授業、研究授業、授業評価を活用した授業研究とICT機器の積極的活用による授業改善 ・主体的、対話的で深い学びの視点に立った授業実践	(4)【校務運営等】 ・教員減に対応した勤務体制の見なおし ・迅速な情報共有と緊密な連携による組織的対応の習慣化 ・コミュニティスクール等地域、企業、異校種などとの双方向の連携強化 ・本校の特徴的な活動やものづくりの魅力の積極的情報発信
(2)【生徒指導等】 ・基本的生活習慣の確立と規範意識の向上 ・命の大切さや人権を尊重する心や態度の育成 ・交通法規の遵守とマナーの向上 ・部活動や特別活動の活性化	◎本年度のチャレンジ目標 ① 進路実現100% ② 全校生徒で 年間95%以上の出席率
(3)【進路指導】 ・資格取得の促進 ・早い時期からの進路意識の醸成 ・就職サポーター等と連携した積極的な情報収集 ・生徒・保護者への確実な情報提供 ・最後まで粘り強いサポートの実践	

4 自己評価						5 学校運営協議会委員評価	
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	実践目標の達成状況の診断・分析	学校運営協議会委員からの意見・要望等	評価
学習指導	基礎学力の向上と学習習慣の確立	考查毎の生徒の「振り返り」を教科担当が必要に応じて支援する。さらに学期に1回、授業評価を実施し、評価結果の分析に基づいて授業改善を行い、生徒の基礎学力の向上を図る。	授業評価項目の中の授業の内容が「よく分かる」、「分かる」が合わせて 4: 85%以上 3: 75%以上 2: 65%以上 1: 65%未満	4	授業アンケートの結果から、授業内容について、概ね「(よく)分かる」の評価が99%であった。「分かりやすい説明・工夫」については、概ね「(よく)分かる」の評価が99.8%であった。電子黒板やタブレット等のICT機器を活用した授業実践や、生徒の理解度に応じた「振り返り」を支援できたこと、また、1年生については、観点別評価の導入に伴い、それを意識した授業実践が、この評価につながったと考える。	・授業アンケートでは高い評価を得ている。 ・出席率の高い生徒が多い。 ・ICTの活用を積極的に進めてほしい。 ・授業参観はもう少しで目標達成のため頑張ってもらいたいです。	A
		教員相互による授業参観を活用し、授業力向上に取り組む。	教員一人あたりの授業参観回数が 4: 5回以上 3: 4回以上 2: 3回以上 1: 3回未満	3	授業参観は、前期23回、後期19回、累計42回、教員一人あたり平均4.2回行った。外国籍の生徒が1人在籍しており、その生徒をサポートするために授業担当とは別に教員1名が常に参加している。		
		学習習慣を確立させるため、高い出席率の維持に努める。	出席率が95%を超える生徒が 4: 8名以上 3: 6名以上 2: 4名以上 1: 2名以上	3	4月から1月末において、出席率が95%を超える生徒は7名/13名であった。内訳は1年生1名、2年生3名、3年生3名、4年生0名である。皆勤の生徒はいないが、精勤の生徒は2名いる。内訳は2年1名(欠席1)、3年1名(遅刻1)である。また、欠席ではないが、遅刻の多い生徒が若干名いる。		
生徒指導	基本的生活習慣の育成	頭髮、服装指導を徹底する。	頭髮、服装指導の再指導を要する生徒が 4: 10%未満 3: 20%未満 2: 30%未満 1: 30%以上	1	今年度は頭髮服装指導を要する生徒が49%と多かった。年間通じて一度も注意・指導を受けない生徒が2名しかおらず、次年度の課題である。	母集団が少ないので評価基準を%で定めるのは考えるべきかもしれない。いじめ防止のための働きかけは十分できている。	B
		時間厳守の意識をもたせる。	授業開始時刻を守れなかった生徒が年間で 4: 4名以下であった。 3: 7名以下であった。 2: 10名以下であった。 1: 多数であった。	1	遅刻する生徒や無断欠席をする生徒は決まっており、指導を継続している。生活習慣の改善に向け、次年度も根気強い指導が必要である。		
	いじめや問題行動等の未然防止	生徒情報交換会を前後期各2回程度実施し、その中で指導や支援に関する最新の知見を共有する。	4: 交換会を前後期2回程度実施し、生徒情報及び最新知見の共有ができた。 3: 交換会を前後期1回程度実施し、生徒情報を共有することができた。 2: 交換会実施は定期的に実施できなかったが、生徒情報を共有することができた。 1: 実施できなかった。	4	生徒の情報交換については、定例の会以外に公式、非公式に共有が行われた。欠席数の多い生徒や不登校傾向、発達障害等のある生徒に関して、生活環境について情報共有するとともに、指導方法の検討がなされた。次年度以降も今年度の実施を継続して、生徒指導に活かしたい。		
		生徒一人ひとりの変化に気を配り、いじめや問題行動の早期発見、未然防止に努めるために、アンケートや個人面談を積極的に行う。	アンケートや個人面談を 4: 年間6回以上実施した。 3: 年間4回以上実施した。 2: 年間2回以上実施した。 1: 年間1回未満の実施となった。	3	いじめアンケート(2回)、個人面談(3回)その他生徒個人の悩みや問題行動に関する面談を頻繁に行っている。定時制内で、いじめは確認されていないが、全国的にSNS等でのいじめが増加傾向にあるため、授業や人権教育、外部講師の指導などで、加害者や被害者にならないように指導をしている。		
	交通法規の遵守とマナーの向上	定期的に実施する安全教室と合わせて、月1回の交通安全日を設定して登校時に注意喚起する。	月1回の交通安全指導日を 4: 年間を通してすべての月で実施した。 3: 年間10回以上実施した。 2: 年間8回以上実施した。 1: 年間8回未満の実施となった。	1	原付通学の1名には個別な指導を実施したが、保護者の自家用車での通学や歩行による通学が多いので、登校時の指導の回数は少なかった。		

評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	実践目標の達成状況の診断・分析	学校運営協議会委員からの意見・要望等	評価
進路指導	生徒一人ひとりの進路について関心を高め、勤労観・職業観の育成を図り、ミスマッチのない進路選択の実現	LHRや各種行事での進路学習、個人面談等を通して、生徒一人ひとりの進路意識を高揚させ、早期に具体的な進路目標を持たせる。	全学年の生徒において進路希望「未定」が 4： 10%未満 3： 20%未満 2： 40%未満 1： 40%以上	4	コロナ禍で予定していた進路行事が実施できないときもあったが、今年は昨年度できなかった工場見学を実施するなど少しずつではあるが、以前と同様の進路行事を実施できるようになってきた。就職希望の生徒は進路を決めることができたが、依然として進路選択に時間がかかる生徒もいる。今後も継続的に進路意識を高める取組をしていきたい。	卒業生3名が無事進路を決められたことは評価に値する。今後もガイダンスの充実、マッチングの促進に努めてほしい。	B
		卒業学年生徒一人ひとりの希望に添った進路が実現できるよう支援する。	卒業学年生徒において 4： 全員の進路が12月末までに決定 3： 全員の進路が 2月末までに決定 2： 全員の進路が 3月末までに決定 1： 3月末までに進路先を決定できない者がいた	4	人数が少ないので丁寧にきめ細かな指導ができているが、今年は卒業学年の出席率が低く、夏季休業中の指導が難しいなど、いろいろと指導するのも苦労した。常日頃から出席に関しては気をつけて指導していきたい。		
特別活動	学校行事や生徒会活動を通した活力ある学校づくり	学校行事を通して、生徒の自主性を育成する。	4： 95%以上の生徒が参加し、生徒の自主的な取組が活発に行われた。 3： 93%以上の生徒が参加し、生徒の自主的な取組が行われた。 2： 90%以上の生徒が参加し、生徒の自主的な取組が行われた。 1： 参加した生徒は87%に満たず、取組は停滞していた。	2	特定の生徒の欠席が多く見受けられ、参加率は91.2%となった。しかし、小工祭(文化祭)では、感染症対策に気を付けながら、ナンの販売や手作りゲームなど、明るく献身的に来場者をもてなした。新入生歓迎行事やクリーン作戦、秋季定通体育大会など欠席者0の行事もいくつもあり、参加した生徒たちは皆積極的・協力的であった。	コロナ禍の中でもできる範囲で取り組んだ様子がうかがえる。	B
工業科	産業人として必要な技能・技術の習得	資格試験、検定試験の実施や外部人材活用により、生徒に基礎的な技能・技術を身に付けさせる。	資格・検定試験や外部人材の活用を 4： 年間6回以上実施した。 3： 年間4回実施した。 2： 年間3回実施した。 1： 実施できなかった。	4	山口マイスター活用事業(1回)、危険物取扱者試験(丙種)、全国工業高等学校長協会検定(6回)を実施及び実施予定である。また、日本語指導が必要な生徒への原付免許取得を個別指導した。マイスター活用については派遣制度の変更のため、次年度以降実施が未定であるが、様々な形で外部人材の活用を考えたい。	資格・検定試験や外部人材活用を積極的に進めている。研修についてもよく取り組んでいると思われる。	B
	技術の習得と技能の継承による指導力向上	工業専門科目やICTに関する研修会へ積極的に参加する。	教員一人当たり、研修に 4： 年間4回以上参加した。 3： 年間3回参加した。 2： 年間2回参加した。 1： 年間2回未満であった。。	2	ICTに関する研修会の参加はあったが、工業専門科目の研修会への参加は1件であった。工業科の教員は特設の研修会参加より、各個人が日常から継続的に技術研修を行うほうが効率が良く、回数的には少ない結果となった。生徒の工業系以外への進路希望が増えているが、工業科の教員の技術や技能の低下を招かぬよう研修していきたい。		
業務改善	業務改善と勤務体制の改善による業務の効率化	教務、生徒指導、進路指導、特別活動の各分掌における業務改善及び組織の再編により業務の効率化を図る。	業務改善と組織再編による業務の効率化を 4： すべての分掌において実施できた。 3： 3つの分掌において実施できた。 2： 2つの分掌において実施できた。 1： 1つの分掌も実施できなかった。	4	教務部では観点別評価に対応した教務内規の見直し等を行った。進路指導部では、コロナ禍における新しい工場見学を企画・実施した。総務部では、コロナ禍における行事を実施するための判断基準を作成し、運用した。生徒指導部では校則について検討した。	業務の効率化や定時退勤の呼びかけや功を奏しているのではないかと。	B
	迅速な情報共有と緊密な連携による組織的対応の習慣化	分掌間や分掌内の情報共有と緊密な連携を図るため、連絡会後の時間(ミーティングタイム)を設定して必要に応じて取り組む。	迅速な情報共有と緊密な連携が 4： 約90%以上図れた。 3： 約80%以上図れた。 2： 約70%以上図れた。 1： 70%未満	3	連絡会後の時間を活用して、生徒情報交換会や観点別評価の検討、進路指導部会等を実施した。この時間を活用したことで、全教員から情報共有や緊密な連携が図れたと回答があった。		
		各校務分掌の主任、副主任の連携・協力による業務の円滑な遂行とジョブ・ローテーションを意識した業務改善を図る。	業務の円滑な遂行とジョブ・ローテーションを意識した業務改善が 4： 約90%以上図れた。 3： 約80%以上図れた。 2： 約70%以上図れた。 1： 70%未満		主任、副主任の連携・協力による業務の円滑な遂行とジョブ・ローテーションを意識した業務改善が図れたと答えた教員は80.0%であった。		
	時間外業務時間の削減	定時退勤を呼びかけ意識改革を図る。また、必要に応じて日々の適切な業務の配分を行い、勤務時間内に全員が退勤できるように配慮する。	時間外業務の一か月当たりの平均時間が 4： 15時間以下 3： 20時間以下 2： 25時間以下 1： 30時間未満	4	定時退勤の呼びかけや日々の適切な業務時間の配分を行い、全員が定時で退勤できるように配慮した結果、4月から1月までの間で15時間を超えたのは6、7月だけでそのほかの月はすべて15時間以内であった。最も少ない月は12月で8.8hであった。		
地域連携	地域に対する教育活動の周知	各種行事を広報・公開し、地元紙・広報誌等の連携及びホームページにより積極的に地域へ発信する。	各種掲載回数及びホームページの更新合計が 4： 20回以上 3： 15回以上 2： 13回以上 1： 13回未満	2	コロナ禍で延期、中止した行事や規模を縮小して取り組んだ行事等もあり、新聞・広報誌等の掲載回数4回、ホームページ更新回数9回であった。	コロナ禍の中でもできる範囲で取り組んだ様子がうかがえる。評価基準等を柔軟に見直して目標を達成してほしい。	B
	近隣中学校と本校定時制との連携強化	近隣中学校の授業公開への参観や学校説明のための中学校訪問、本校の授業開放の案内を行い、相互理解を深める。	中学校への訪問と本校授業公開の合計日数が 4： 20日以上 3： 18日以上 2： 15日以上 1： 15日未満	2	授業公開は5日間実施し、近隣中学校から生徒、保護者、教員が参観した。学校説明会にも数名の参加があった。中学校訪問と合わせ15日となるが、訪問できない中学校には市内外を含め、18校へ学校案内パンフレットを送付した。		
	学校と家庭、地域社会との連携の強化	デュアル研修、地域の伝統産業の学習、工場見学、老人ホームでの活動等、地域と連携した教育活動に取り組む。	目的を理解し、「意欲的に取り組めた」と答えた生徒が 4： 85%以上 3： 75%～85%未満 2： 65%～75%未満 1： 65%未満	4	コロナ禍のため実施できなかった教育活動もあったが、生徒アンケートの結果から92%の生徒が目的を理解して「意欲的に教育活動に取り組めた」と答えた。		
ICTの活性化	ICT機器の積極的活用による、指導能力の向上	全教員がICT機器(一人1台パソコン、電子黒板)を積極的に活用して授業力の向上に取り組む。	ICT機器を活用した授業が「できる」と答えた教員が 4： 90%以上 3： 80%以上 2： 60%以上 1： 60%未満	3	電子黒板を使用した授業は、ほぼ定着しており、学習内容の理解の一助となっている。1人1台パソコンについては必要に応じた使用がなされているが、教科書とノートが基本の授業も多く、従来のデスクトップパソコン使用の学習もあるため、活用率自体は高くない。今後は積極的な活用だけではなく、授業に効果的なICT機器の活用について、教員一人ひとりが考えることが必要である。	ICTの利用は避けられない流れだと思うので、個々の職員のスキルアップに一層努めてほしい。	B

6 学校評価総括(取組の成果と課題) 【各委員の方からのコメント】「生徒一人一人に寄り添った取組をされていることが分かった。」「今後も生徒一人ひとりと向き合った指導をお願いします。」「コロナ禍においては評価基準を柔軟に設定しなおしてもいいのではないかと。」「ICT機器を活用も進んでいるように思われる。」「継続してきめ細かく一人ひとりを指導している様子がうかがえる。」「さまざまな事情を抱える学生さんに対して細やかな対応を実施されている。」等のコメントをいただきました。問題提起としては、「人数が少ない場合は、%による評価基準を考えてみる必要があるのではないかと。」等の意見をいただいた。 【成果】 学習指導については十分な成果があったと評価できる。また、チャレンジ目標の一つである「進路実現100%」は達成できた。業務時間の縮減については十分目標を達成できている。 【課題】 学習指導(教務)特定の生徒の欠席多により、出席率が若干下がっている。学習習慣の確立のためにも出席率の回復・向上に努めたい。 生徒指導(生徒)問題行動そのものは少なかったが、頭髪服装、礼法等の徹底ができなかった。 進路指導(進路)進路決定はできたが、もっと早期に具体的な進路目標を持たせることが難しい。 特別活動(教務)特定の生徒の欠席が目立った。 業務改善(教頭)ワークシェア、ジョブローテーションの促進。 地域連携(教頭)感染症のため延期された地域貢献行事等の実施等。 ICT活性化(情報担当)ICT利用について、教職員の意識は変化してきたが、授業への効果的活用が課題である。 チャレンジ目標(教頭)諸事情で出席が安定しない生徒が数名おり、目標達成はかなわなかった。	7 次年度への改善策 学習指導(教務)生徒への声かけ・家庭との連携をより密接にして、細やかな指導をしていく。 生徒指導(生徒)個別指導や全体指導で細かな指導に取り組んでいきたい。 進路指導(進路)さまざまな進路行事の中で、早期に進路目標が決定できるように支援していく。 特別活動(教務)欠席がちな生徒への声かけを徹底する。生徒がより興味関心を持てるよう、各活動の見直しをする。 業務改善(教頭)職員間の業務連携やワークシェア、効果的なジョブローテーションを一層促進させる。 地域連携(教頭)スモールステップでも促進を図っていきたい。 ICT活性化(情報担当)必要に応じた生徒用タブレットの利・活用を推進する。 チャレンジ目標(教頭)今後、生徒の心身の健康増進を図り、目標実現を図りたい。
--	--